

お金の教育 3

ファイナンシャル・プランナー 永野智子

先日、『大学進学断念「学費で」7割』という記事が日経新聞に掲載されていました。教育情報会社ライセンスアカデミーが全国のほぼすべての高校 5458 校のうち 1297 校の進路指導担当教諭から回収した調査によると、大学進学を断念した理由（複数回答）について、76.3%の高校が「学費や入学後の費用」と回答したとのこと。景気低迷下により学費負担が重いことが浮き彫りになっています。また、「貸与奨学金や教育ローンを借りてでも進学した方が良いか」との問いには、56.6%の教員が「そう思う」と回答していますが、大学生の就職状況が厳しくなっており、奨学金を返済できるか不安なため生徒に勧めにくいと感じる教員が多いそうです。次いであがった理由が「生徒と親の希望が違う」で 31.5%です。大学進学に必要な学力や費用には問題ないにも関わらず、生徒と親の意見が合わないと理由で大学進学を断念するというのも何ともやるせない理由ですよね。

以前は子どもが大学を卒業したら、自分たちの老後資金を貯めるというのが主流でした。しかし、昨今の大学就職内定率が過去最悪の水準に落ち込み、就職できずに親に面倒を見てもらざるをえない若者が少なくありません。日本経済新聞社が行った「家計・生活ネット 1000 人本社調査」によると、親としていつまで子どもを養うべきか尋ねたところ、最も多かったのは「大学・短大・専門学校卒業まで」（43%）、次いで多かったのは「経済的に独立できるようになるまで」（20%）という結果になりました。また、就職後も収入が低いために経済的自立が難しく、しばらくの間は親に頼らざるをえない若者も増えているのが現状です。高校教諭がローンを借りてまで進学することを勧めづらいのも納得です。

一般的にお子様は小学校にあがる頃から、日常生活に係る出費以外にも塾や習い事などの支出が増える傾向があります。今回は、お父さんやお母さんが一体どのような仕事をしているのかを通して家計の収支について話しをすることで、お金に関する感覚が自然とお子様にも身につく、将来的に経済感覚が身につくやすくなるというお話をしました。

例えば、お子様が習いたいと言い出してはじめて習い事なのに、なかなか長く続かないといったケースでも、習い事にかかる月謝がどのような収入から支払っているのかを話すことにより、習い事に対するお子様の意識も自然と変わってくるのではないのでしょうか？

また親御さんにとっても、平日頃家族で家計について話し合う場を持つことで、お子様の塾や習い事に係る金額が年単位でいくらになるのか、またそれがいつまで続くのかを算出することで、家計を見直す良いきっかけにもなります。家族間のコミュニケーションも増え、一石二鳥以上に様々な良い効果が期待できます。

それではここで、お子様の習い事に関するデータを実際に見てみましょう。読売新聞社と NTT レゾナントが 3 歳～中学生の子どもを持つ約 1000 人の消費者モニターに対して実施した共同調査によると、約 3 / 4 の家庭で子どもに習い事をさせているという結果が出ました。併せて、以下の表 1～表 4 は goo リサーチと読売新聞社が 2006 年に共同で行った子どもの習い事に関する調査結果です。

表 1：子どもの習い事の数ベスト 3

順位	数	割合
1位	1つ	30.99%
2位	2つ	27.88%
3位	3つ	12.77%

表 2：習い事をさせている理由ベスト 3（複数回答）

順位	理由	割合
1位	体力や運動能力の向上	45.99%
2位	音楽や美術、書道など文化的な能力の向上	29.97%
3位	子どもが自分で行きたいと言ったから	44.83%

コラムの無断転写・転載などを禁じます。 -

Copyright © 2011 Skirr Japan Corporation. All Rights Reserved.

表3：子供が現在している習い事、新たに習わせたい事

順位	現在の習い事	割合	新たに習わせたい事	割合
1位	学習塾	32.04%	英会話・英語教室	20.80%
2位	ピアノ、オルガン、バイオリンなど音楽	31.91%	学習塾	14.86%
3位	水泳	26.49%	水泳	13.82%

表4：月にかかる費用

順位	習い事	割合	学習塾	割合
1位	1万円以上-3万円未満	42.64%	1万円以上-3万円未満	52.42%
2位	5000円以上-1万円未満	32.30%	5000円以上-1万円未満	23.39%
3位	5000円未満	13.18%	3万円以上-5万円未満	15.32%

表1～4 出所：子どもの習い事に関する調査（2006年11月 goo リサーチと読売新聞社による共同企画調査）より筆者作成

上記の調査結果によると、毎月かかる塾や習い事の費用はそれぞれ1万円～3万円がトップです。お子様の現在の年齢を7歳、習い事の費用が毎月2万円と仮定すると、塾や習い事の費用だけで年24万円、子どもが大学に入学するまでの10年間で240万円です。習い事だけではなく塾にも通うと仮定し、単純に支出を2倍で計算すると月4万円、年48万円、10年で480万円かかることとなります。また、中学受験や高校受験、大学受験などを考慮すると、受験準備にも多くの費用がかさみます。さらに大学入学後は、毎年100万円前後の学費が4年間かかることを想定すると、ただでさえ生活する為には他にも多くの支出があるのですから、習い事の月謝は決して軽視できない金額です。親心としては、いろいろな習い事をさせて、子どもの可能性を広く伸ばしてあげたいと思うところですが、やはりそれも収入があつてのことです。子どもの希望には、家計を照らし合わせた上で可能な限り応えてあげたいものですね。

お金の教育の一環として是非行っていただきたいのが、お子様にお父さんやお母さんがどのような仕事をしていて、世の中にはどのようなお仕事があるのかを話し合ったり、仕事で得た収入でどのように家計を維持しているのかを話していただくことです。ご両親のお仕事を通して経済感覚だけでなく、将来何になりたいのかを子ども自らが考えるようになっていきます。また最近ではキッズニアをはじめ、子どもがいろいろな職業を体験しながら学べる施設が増えてきています。こういった施設は15歳までなどと年齢制限があるため、機会があれば是非とも利用したいものです。常日頃、子どもと話し合う時間をもつことの積み重ねにより、「生徒と親の希望が違う」といった理由から大学進学を断念せざるを得ないリスクが少なくなります。就職活動時に困難な状況に置かれたとしても、親御さんと話し合うことが習慣となっていれば、お子様が1人で悩みを抱えるといったリスクも少なくなるのではないのでしょうか。

年金制度もあてにできない中、経済的に独立できるようになるまでお子様を養い、その後ご自身の老後資金を貯めるとなるとかなりの負担となります。お子様にとっても、成人後も高齢化による増税の負担は増え、少子化による親の介護負担の増加も予想されます。しかし、将来をただ漠然と不安がっているだけではなく、日頃から家族でお金の教育や将来どうしたいのかを話し合うことで、将来のリスクに備える事が可能です。是非、ご家族で話し合う時間を習慣化してみてください。

さて私事ではありますが、今月が最後のコラムになります。1年に渡り多くの方々にコラムをお読み頂き、大変感謝しております。ありがとうございました。また、このような機会を与えてくださいましたスキラー・ジャパンの伊藤亮太氏をはじめ、関係者方々にこの場をお借りしお礼申し上げます。1年間大変お世話になりました。ありがとうございました。今後も皆様のお役に少しでも立てるような記事や活動に邁進していく所存です。ご声援頂ければ幸いです。